

世界で活躍できる子どもを育てる

習い事として近年、人気が復活してきている「そろばん」。文部科学省もその効果を認め、2011年に導入された小学校の新学習指導要領では、これまで小学3年生のみだった「珠算学習」の時間が、小学3～4年生の2年間にわたってとられるようになり、それは近年の改定でもそのまま継続されています。いまや100円ショップでも電卓が売られているような時代に、そろばんの価値が見直され始めているのです。

そろばんに関心のある皆さんは、そろばんの習得を通して子どもに「暗算力」をつけさせたいと願っているかもしれません。しかし、どんな習い事であっても、継続するのは簡単ではありません。珠算上級になれば暗算力習得に近づくものの、決してまったり、結局、暗算ができるようにならなったりする子もいます。

そこで、『5歳からはじめる 世界で羽ばたく計算力の伸ばし方』の著者であり、経営する学習塾で暗算力を効果的にトレーニングするアプリを開発している山内千佳氏に、「暗算」を身につけるための効果的な方法を教えてもらいました。



筆算を学ぶ前の「5～8歳」がベスト

そろばんが暗算の習得に有利といわれているのは、そろばんに熟達すると、珠のイメージが頭の中に浮かぶようになるからです。そろばんの珠をイメージして暗算することを、私たちは「イメージ暗算」と呼んでいます。

そろばんは現在、小学3～4年時の新学習指導要領に取り入れられていますが、私たちはそろばんを使って暗算をトレーニングする適齢期は5～8歳だと考えています。なぜなら、筆算ですらすら計算問題が解けてしまうと、珠をイメージする上では邪魔になってしまうからです。

「 $5+3=8$ 」と一瞬でわかる子に、「5のイメージはこうで、3のイメージはこうで……」と言っても、すでにわかっている答えを導くために、わざわざ頭の中でイメージしたりはしません。これは、すでに右手を使ってごはんを食べている子どもに「左手で食べなさい」と言っているようなものです。学校で筆算を本格的に始めるのが小学2～3年生ごろなので、その前にイメージ暗算をトレーニングするのがよいと私たちは考えています。

「公文式」もまた、人気の習い事です。私も、公文式を見習って自分たちの学習カリキュラムを改善したくらい、そのクオリティに感銘を受けています。一方で、公文式とイメージ暗算の習得を目的としたそろばんの両方を習いたい場合には、その「順序」が重要ではないかというのが私たちの見解です。公文式では筆算の反復練習をするため、イメージ暗算を習得する前に公文式に通うと、イメージ力が育ちにくい可能性があると考えています。ただし、イメージ暗算を身につけた後に公文式で計算の反復練習をして、非常に伸びている生徒は何人もいます。

暗算力は人生を豊かにする

暗算力は、人生を豊かにします。小さいころに暗算力をつけたおかげで「積極的にいろいろなことに挑戦するようになった」とか「ほかの分野でも活躍できるようになった」といったお母さんたちからの報告は後を絶ちません。効果的な学習方法を知ってさえいれば、子どもは楽しみながら、その後の人生に役立つ暗算力を獲得することができるのです。



ウェブサイト LIMO [リーモ]からの抜粋。

今後、急速にキャッシュレス社会が進んでいくでしょうが、どのような世の中になっても実社会では数字は必ずついて回りますし、暗算力はさまざまなシーンで活躍することでしょう。

記事内で触れている暗算適齢期はあくまでもスタートする時期の目安ということでしょう。わたしたちの教室ではソロバンが6級に入るタイミングで暗算を6級から始めていきます。暗算はそろばんで培うイメージ力をフル活用して計算しますので、まずはソロバンをきちんとマスターすることが肝要となります。